

閣下 第一八號

起
案 昭和二年四月一日

裁可	年月日
決定	二年四月一日
施行	年月日

年月日

内閣總理大臣了

内閣書記官長

内閣書記官



昭和二年四月一日

内閣書記官長

大喪使長官宛

来ル四月三日山陵百日祭、儀被為行ニ付陵所

参集所、参集^ス各總代別記ノ通ニ有之候
條依命及通知候

(別記)

内閣

國務大臣總代

外務大臣男爵幣原喜重郎

親任官總代

朝鮮總督府政務總監湯淺倉平

親任官待遇總代

第二師團長陸軍將井上一次

内閣勅任官總代

賞勲局總裁宇佐美勝夫

全奏任官總代

法制局參事官村瀨直養

樞密院

樞密院副議長
樞密顧問官總代

樞密顧問官松室致

樞密院勅任官總代

樞密院書記官長二上兵治

樞密院奏任官總代

樞密院書記官 堀江 李雄

外務省

外務省勅任官總代

外務省條約局長 佐分利 貞男

奏任官總代

外務書記官 澤田 廉三

内務省

内務省勅任官總代

社會局部長 河原田 稼吉

奏任官總代

社會局書記官 吉阪 俊藏

大藏省

大藏省勅任官總代

大藏省主稅局長 黒田 英雄

奏任官總代

大藏書記官 中嶋 鐵平

陸軍省

陸軍大將總代

陸軍大將 菅野 尚一

陸軍省勅任官總代

陸軍中將 岸本 鹿太郎

奏任官總代

陸軍歩兵大佐 古川 三郎

海軍省

元帥總代

元帥海軍大將子爵 井上 良馨

海軍大將總代

海軍大將 山下 源太郎

海軍省勅任官總代

海軍中將 山本 英輔

奏任官總代

海軍中佐 武富 邦茂

司法省

司法省勅任官總代

司法省刑事局長 泉二新熊

全 奏任官總代

判事 草野豹一郎

文部省

文部省勅任官總代

文部省督學官 森岡常藏

全 奏任官總代

文部技師 石崎卯藏

農林省

農林省勅任官總代

農林省水產局長 松村真一郎

全 奏任官總代

農林書記官 村上龍太郎

商工省

商工省勅任官總代

商工省鑛山局長 三井米松

逓信省

全 奏任官總代

商工書記官 寺尾 進

逓信省勅任官總代

逓信省工務局長 稻田三之助

全 奏任官總代

逓信省電氣試驗技師

神保成吉

鐵道省

鐵道省勅任官總代

鐵道省監督局長 齋藤 真澄

全 奏任官總代

鐵道技師 小林 源松

貴族院

貴族院勅任官總代

貴族院議長 公爵 德川 家達

貴族院書記官長 成瀬 達

貴族院奏任官總代

貴族院守衛長 石橋 徳作

衆議院

衆議院議長 森田 茂

衆議院勅任官總代

衆議院書記官長 中村 藤兵衛

衆議院書記官

衆議院書記官 田口 弼一

會計検査院

會計検査院勅任官總代

會計検査院部長 岡 今朝男

會計検査院書記官

検査官 岡 正路

行政裁判所

行政裁判所勅任官總代

行政裁判所評定官 阿部 文二郎

警視廳

奏任官總代

野澤 文彦

警視廳

警視廳勅任官總代

警視廳總監 太田 政弘

警視廳書記官

警視廳事務官 高野 多助

東京府

東京府勅任官總代

東京府知事 平塚 廣義

東京府書記官

地方事務官 正木 虎藏

樞密院副議長樞密顧問官總代

樞密顧問官松室 致

勅任官總代

樞密院書記官長二上兵治

奏任官總代

樞密院書記官堀江季雄

未四月三日山陵百日祭、儀被為行候、竹陵所、參考集、
手本院總代人名前記之通、候條此段及通知候也

昭和二年三月三十日

樞密院書記官長二上兵治

内閣書記官長塚本清治殿

(赤 棒 紙)

人普通第一七一號

昭和二年三月三十一日

外務次官 出 淵 勝

内閣書記官長 塚 本 清 治 殿

山陵百日祭參列員總代通知ノ件

來四月三日山陵百日祭ニ參列スヘキ勅奏任官總代左記ノ通ニ付御承
知相成度シ

記

勅任官總代

外務省條約局長從四位勳二等 佐 分 利 貞 男

外 務 省

奏任官總代

外務書記官從五位勳四等 澤田廉三

(赤 梓 紙)

外務省

内第三二三號

昭和二年三月卅一日

内務大臣秘書官

内閣書記官殿



來ル四月三日山陵百日祭ノ儀被爲行候節陵所參集所へ參集可致當
省勅奏任官總代氏名左記ノ通ニ有之候

記

勅任官總代 社會局部長 河原田 稼吉

奏任官總代 社會局書記官 吉阪 俊藏

以上

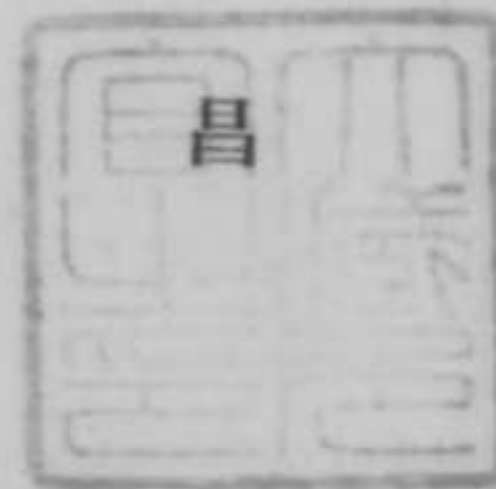
内務省

紙第 四 一 號

昭和二年三月卅一日

大藏次官 田

内閣書記官長 塚 本 清 治 殿



來ル四月三日山陵百日祭ノ儀被爲行候ニ付當省勅任官並奏任官總代
左記ノ通ニ有之候

記

勅任官總代
奏任官總代

大藏省主稅局長 黑 田 英 雄
大藏書記官 中 嶋 鐵 平

大 藏 省

山陵祭典 第二三八號

山陵百日祭ノ儀被爲行節總代參集ノ件通牒
昭和二年三月三十一日 陸軍次官 畑 英 太 郎

内閣書記官長 塚 本 清 治 殿

來ル四月三日山陵百日祭ノ儀被爲行候節左記ノ通總代參集可致ニ付
通牒ス



左 記

陸軍大將總代	陸軍大將	菅 野 尙 一
親任官待遇總代	第二師團長陸軍中將	井 上 一 次
陸軍省勅任官總代	陸軍中將	岸 本 鹿 太 郎
陸軍省奏任官總代	陸軍歩兵大佐	古 川 三 郎

陸 軍

官房第一〇二七

昭和二年三月三十日

海軍次官 大 角 岑

内閣書記官長塚本清海殿



總代人名ノ件

來四月三日山陵百日祭ノ儀被爲行候ニ付元帥、海軍大將、勅、奏任官
各總代トシテ參列スヘキ諸官左記ノ通ニ有之候
右通知ス

記

元帥總代

元帥海軍大將子爵

井上良馨

海軍大將總代

海軍大將

山下源太郎

勅任官總代

海軍中將

山本英輔

奏任官總代

海軍中佐

武富邦茂

司法省人庶第四二四號



昭和二年三月三十一日

司法次官 林 頼三郎

内閣書記官長 塚本 清治 殿

來四月三日山陵百日祭ノ儀被爲行候節陵所參集所へ參集可致當省所管勅
奏任官ノ總代ハ左記ノ通ニ有之候

記

勅任官總代

司法省刑事局長 泉 二新 熊

奏任官總代

判事 草野 豹一郎

電話回答 公文後送

文部省

勅任官總代

文部省督學官 森岡常藏

奏任官總代

文部技師 石崎卯藏

商工省

勅任官總代

商工省鑛山局長 三井米松

奏任官總代

商工書記官 寺尾進

警視廳

勅任官總代

警視廳總監 太田政弘

奏任官總代

警視廳事務官 高野多助

東京府

奏任官總代

地方事務官 正木虎藏

逋信省

勅任官總代

逋信省工務局長 稻田三之助

奏任官總代

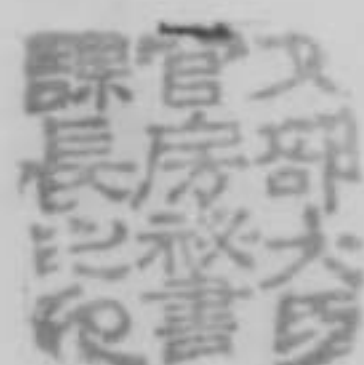
逋信省電気試験所技師

神保成吉

官秘二九號

昭和二年四月一日

文部大臣官房秘書課長
文部書記官 澤田源



内閣書記官殿

三月二十九日付内閣閣乙第一八號ヲ以テ御照會ノ四月三日山陵百日祭ニ
參集スヘキ當省勅任官並奏任官總代左記ノ通りニ付御了知相成度

記

勅任官總代 文部省督學官 森岡 常藏

奏任官總代 文部技師 石崎 卯藏

以上

文 部 省

秘發第一五〇號

昭和二年三月三十一日

農林次官阿部壽準



内閣書記官長殿

来ル四月三日山陵百日祭ノ儀被為行候ニ付
當省ヨリ参集スル勅奏任官總代左記ノ通
決定致候間可然御取計相成度此致及御
通知候也

記

勅任官總代

農林省水産局長 松村真一郎

奏任官總代

農林書記官 村上龍太郎

昭和二年四月一日

昭和二

商工次官男爵四條隆英



内閣書記官長殿

来四月三日山陵百日祭ノ儀ニ付参列スヘキ當
省勅奏任官總代左記ノ通ニ有之候此段及
通知候也

記

勅任官總代

商工省鑛山局長 三井米松

奏任官總代

商工書記官 寺尾進

官秘西三三四通牒

昭和二年四月一日

逓次官桑山鐵男



内閣書記官長塚本清治殿

来々四月三日山陵百日祭、義行ハセラレ
候際當省勅奏任官總代トシテ左記
、者陵所系集所、考集可致候條御了
知相成度候

記

勅任官總代

逓信省工務局長

稻田三之助

奏任官總代
電氣試験所技師

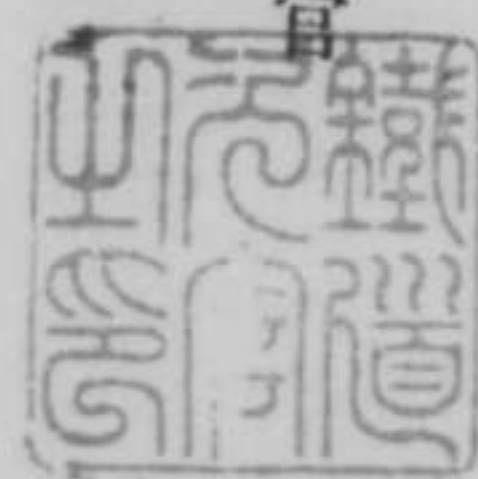
神保成吉

鐵秘第六三四號

昭和二年三月三十一日

八田鐵道次官

塚本内閣書記官長殿



鐵道省

閣乙第一八號御通牒ノ山陵百日祭ノ儀參列當省總代左記ノ通ニ有之候
記

勅任官總代

鐵道省監督局長 齋藤眞澄

奏任官總代

鐵道技師 小林源松

貴族院第一〇一號

昭和二年三月三十日

貴族院書記官長 成 瀨 達

内閣書記官長 塚 本 清 治 殿

來四月三日山陵百日祭ノ儀被爲行候節山陵へ參集スヘキモノ左記ノ
通ニ有之此段及御通知候也

記

貴族院議長公爵 德 川 家 達

貴族院勅任官總代

貴族院書記官長 成 瀨 達

貴族院

貴族院奏任官總代

貴族院守衛長

石橋德作

貴族院

議院事務

昭和二年三月三十一日

衆議院書記官長 中村藤兵衛

内閣書記官長 塚本清治殿



來ル四月三日山陵百日祭ノ儀ニ參列可仕本院諸員左記ノ通ニ有之候
右及御通知候也

記

衆議院議長從七位勳三等 森田 茂

勅任官總代 中村 藤兵衛

衆議院書記官長從四位勳三等 中村 藤兵衛

奏任官總代 中村 藤兵衛

衆議院書記官從五位 田口 弼一

衆議院

普第一〇一號

昭和二年三月三十日

會計検査院長 水町 袈 六



内閣書記官長 塚本 清 治 殿

來ル四月三日山陵百日祭ノ儀ニ參列可仕本院勅奏任官總代人名左記ノ通ニ有之候
此段及御通知候也

左 記

勅任官總代

會計検査院部長 岡 今 朝 雄

奏任官總代

検査官 岡 正 路

以上

第三號

行政裁判所官房 五三

昭和二年三月三十日

行政裁判所長官官房



内閣官房総務課御中

来四月三日山陵百日祭ノ儀被爲行候存
參集スル當廳勅、奏任官總文人名左記ノ通、有之候
此段及御通知候也

記

勅任官總文 行政裁判所評定官 阿部文二郎
奏任官總文 行政裁判所評定官 野澤久彦

行政裁判所

昭
子
子
子
子

太田
昭
昭
昭



昭
子
子
子
子

昭
子
子
子
子

昭
子
子
子
子

昭
子
子
子
子

昭

昭
子
子
子
子

昭
子
子
子
子



閣下第一八號

起
昭和三年三月十九日

裁可	決定
年 月 日	年 月 日
施	行

年 月 日

内閣總理大臣了

内閣書記官長

内閣書記官宣



昭和二年三月十九日

内閣書記官長

樞密院書記官長

各省次官

貴衆両院書記官長

會計検査院長

宛

行政裁判所長官

警視總監

東京府知事

来ハ四月三日山陵百日祭、儀被為行候ニ付左記、
者午後二時十分陵所参集所ハ参集候様御取計
相成度

追テ服装大礼服正装服制ナキ者ハ通常礼服喪章且總代
人名至急決定、上御通知相成度尚旅費ハ大表使ヨリ

支給可致候

記

左ノ通關係事項、其、廳ハ通知

樞密院

樞密院議長

樞密院副議長樞密顧問官總代一人

樞密院勅奏任官總代各一人

陸軍省

元帥總代一人（海軍省ト協議）

陸軍大將總代一人

陸軍省勅奏任官總代各一人

海軍省

海軍大將總代一人

海軍省勅奏任官總代各一人

貴族院

貴族院議長副議長、内一人

貴族院勅奏任官總代各一人

衆議院

衆議院議長副議長、内一人

衆議院勅奏任官總代各一人

内務省

東京府知事

内務省勅奏任官總代各一人

外務、大藏、司法、文部、農林、商工、通信、鐵道

、各省、會計検査院、行政裁判所、警視廳、東京府、

、、、(各廳名)勅奏任官總代各一人

陸軍省勅奏任官總代各一人
親任官待遇總代一人
海軍省

海軍大將總代一人

海軍省勅奏任官總代各一人

貴族院

貴族院議長副議長、内一人

貴族院勅奏任官總代各一人

衆議院

衆議院議長副議長、内一人

衆議院勅奏任官總代各一人

内務省

東京府知事

内務省勅奏任官總代各一人

外務、大藏、司法、文部、農林、商工、通信、鐵道

、各省、會計検査院、行政裁判所、警視廳、東京府、

、、、(各廳名)勅奏任官總代各一人

参照

内閣分

- 一 内閣總理大臣
- 一 國務大臣總代一人
- 一 親任官總代一人
- 一 親任官待遇總代一人
- 一 勅任總代一人
- 一 委任總代一人

内閣

五

大正了



國務大臣總
裁
大正了

昭和二年三月二十八日

大喪使長官一木喜徳



内閣總理大臣若槻礼次郎殿

来四月三日山陵百日祭ノ儀行ハセラレ候ニ付左
記ノ者午後二時十分陵所考集所ニ考集候様御
取計相成度候

追テ服装大礼服正装服制ナキ者ハ通常礼服装
且總代人名至急決定、上御通知相成度旅費ハ
當使ヨリ支給可致候

記

一内閣總理大臣 枢密院議長

- 一 元帥國務大臣總代各一人
- 一 樞密院副議長樞密顧問官總代一人
- 一 陸軍大將海軍大將總代各一人
- 一 親任官總代一人
- 一 貴族院議長副議長、内一人
- 一 衆議院議長副議長、内一人
- 一 親任官待遇總代一人
- 一 東京府知事
- 一 各廳勅任官總代各一人

東ル四月三日山陵百日祭参列員ノ為左記列車ニ車輛
増結致候ニ可成之。依ラル、ヲ御便宜ニ存候而浅川
驛後所間乗物ハ準備致置候間為念此段及御通
知候

記

列車時刻

往。

飯田所發

正午十二時

新宿發

午后十二時廿二分

浅川著

同一時五十九分

帰。

浅川發

午后四時廿二分

新宿著

同一時四十八分

飯田所著

同六時九分

昭和二年三月二十九日

塚本内閣書記官長

殿

來ル四月三日山陵百日祭ノ儀被爲行候ニ付左
記ノ者午後二時十分陵所參集所へ參集候様御
取計相成度

追テ服裝大禮服正裝服制ナキ者ハ通常禮服
附著且總代人名至急決定ノ上御通知相成度
尚旅費ハ大喪使ヨリ支給可致候

記

來四月三日山陵百日祭參列員、為列車發着時
刻割曩、御通知致、置候處左記、通、變更候間
為念、及御通知候

三月三十日

記

列車時刻

往新宿發 午後十二時三十分

涉川着 同 一時五十九分

歸 浅川發 午後五時

新宿着 同 六時三十分

旧

来此四月三日山陵百日祭参列員、為左記列車三車輛
増結致候ニ付可成之ニ依リ、御便宜ト存候尚浅川
驛陵所間乗物ハ準備致置候間為念此段及御通
知候

記

列車時刻

往。

飯田所發 正午十二時

新宿發 午後十二時廿二分

浅川著 同 一時五十九分

歸。

浅川發 午後四時廿二分

新宿著 同 五時四十八分

飯田所著 同 六時九分

内閣府

閣下 第一八號

案 起

昭和二年四月二日

裁可

年 月 日

日 施

行

年 月 日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官長



昭和二年四月二日

内閣書記官長

大喪使長官宛

晨三及通知置候山陵百日祭ニ付陵所系集所系集

各總代中鐵道省勅任官總代ノ左記ノ者ニ變更致候條依命及通知候

記

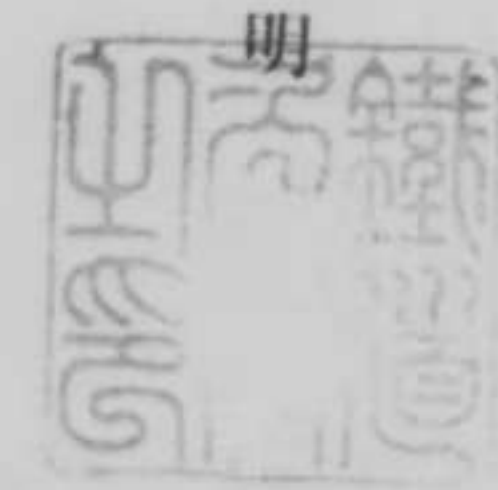
鐵道省工務局長加賀山學

鐵道省

鐵秘第六七七號

昭和二年四月二日

鐵道次官 八田 嘉



內閣書記官長 塚本清治 殿

三月三十一日鐵秘第六三四號ヲ以テ及回答候山陵百日祭ノ儀參列當省勅任官總代ヲ左記ノ通變更相成度

記

勅任官總代

鐵道省工務局長 加賀山 學

供覽

囊

貴族院書記官

昭和二年四月二日

貴族院書記官

内閣書記官長塚本清治殿



明三日山陵百日祭ノ儀被為行候節
山陵ハ参集可致本院書記官長成瀬達ハ
同居ノ家族ニ病人有之候ニ付不参致候
此段及御通知候也
追テ大喪使ハ本人ヨリ及御屈候

貴族院

供覽

内閣總理大臣了

内閣書記官

内閣書記官

昭和二年三月二十八日

大喪使長官一木喜徳郎



内閣總理大臣若槻禮次郎 啟

来四月三日権殿百日祭儀行ハセラレ候ニ付
官中席次第一階ノ者勅任官總代一人誼夫人及全
任官總代一人午前八時三十分参内候様御取計
相成度候

追手服装大礼服ニ装束着夫人ハ通常服又ハ袴袴
且總代人右至急御通知有ニ度候

勅任官總代 内閣書記官 下條康高

参任官總代 内閣書記官 館 啓二

三六

三六

大 喪 使